



加利米利 記浪放

【 1 】

windance



テキストの一部または全部につき、転載、複製、転売などのあらゆる流用を禁じます。

サンプル版のダウンロードを誠にありがとうございます。

以下は本文よりの抜粋です。本文では、高校・大学・大学院と、日本とアメリカを行ったり来たりしながら合計4年をアメリカで過ごした windance のナマの体験をご紹介します。驚きと失敗、感動と挫折に満ちた冒険の数々に、請うご期待！

+++++

自家用飛行機

オリエンテーションの最終日に、僕のホストファミリーは西海岸まで自家用飛行機で迎えにきてくれた。中学生と高校生の子供たち3人全員を乗せて、オハイオ州からカリフォルニアまでお父さんが自分の飛行機で連れてきてしまうとは、何とスケールの大きい国なんだろう！

初めて面会するホストファミリーは5人家族。優しくそうで理知的なお父さん、僕の英語力を意識してかはっきりとした口調でゆっくり話してくれるお母さん、分厚い眼鏡をかけたホストブラザー、そして利口そうな弟とシャイな赤毛の妹さん・・・ 僕のアメリカン・ファミリーだ！

“This is Pfeiffer Samuel Edward, Zero Six Two One Seven... waiting for runaway clearance... Stand by.” サングラスをかけたホストファザーが操縦席に座り、歯切れの良い声で管制塔と通信している。間もなく離陸だ。お父さんが操縦する6人乗りのプロペラ機は、奥様と3人の子供に僕を加えると、ちょうど座席がいっぱいになる。家族全員揃って、大空を自由に旅するという贅沢な冒険に僕は胸が張り裂けそうだったが、子供たちは当たり前顔をしていた。

テキストの一部または全部につき、転載、複製、転売などのあらゆる流用を禁じます。

「ロッキー山脈越え」は緊張の連続だった。雲の中を通過するとジャンボジェットでも揺れを感じるのは皆さんご存知だろう。これが6人乗りとなると、ロッキー山間部の上昇気流や乱気流によって、風に揉まれた蝶のようにヒラヒラ・フラフラといった感じになる。スト〜ンと機体が落ちると、奥様が「オ〜、ジョージ！」(Oh, George!)とため息をつきながら注意をうながす。子供達は慣れっこだ。僕は顔がだんだんと青ざめていく…

やがて、気分が悪くなり嘔吐を繰り返すようになった僕を見かねて、近くの空港に連絡して着陸許可をもらい、ホテルで一泊の休憩をとることになった。

***** 中 略 *****

地元の高校

毎週末のホームパーティーに集まる裕福で品行方正なご夫婦たちと対照的だったのが、僕が通った地元の高校だった。

高校まで義務教育のアメリカでは、大半の生徒は勉強する気など全くない。中学と高校が一緒になっていたその学校では、13歳のまだ可愛らしさが残る少年少女たちから18歳の全身からフェロモンが溢れ出ているような不良生徒たちまでが混ざり合い、様々な人生劇を繰り広げていた。

彼らの関心事はただひとつ、いかに異性を惹きつけるかにあった。13歳から化粧バ

テキストの一部または全部につき、転載、複製、転売などのあらゆる流用を禁じます。

リバリ、半裸に近い服装と好戦的な態度を誇示し、授業中には先生をあざ笑い、ニヤニヤしながらさまざまな悪戯を仕掛ける。学校の廊下ではカップルが腕組みをして歩くのはごく普通の光景で、あちらこちらでディープキスのオンパレード、女の子がいつの間にかクラスからいなくなったと思いきや妊娠中...

親が旅行中の隙をついたホームパーティーが毎晩どこかで開かれており、好き放題の大騒ぎが当たり前だった。正式なホームパーティーとは異なり招待不要、誰でも出入り自由の無法地帯で、パーティーを転々とする party-hopper と呼ばれる連中も多い。

こんな中で、日本の進学校から送り込まれてきた英語の不自由な男の「子」は、さぞかしひ弱に写ったことだろう。

少女たち

慣れるまでは、ショッキングな毎日が続いた。

街角のお姉さんと同じような服装と化粧の女性たちが教室で僕の隣りに座り、ひと癖もふた癖もありそうな意味深な会話を仕掛けてくる。男子生徒もシルベスター・スタローン並みのムキムキ連中はざらで、要するに「タフ」であることが無法地帯のようなこの田舎の生き抜くための条件だった。

僕はそんな雰囲気飲み込まれまいと、自分の存在価値が算数の能力で証明されるまでは、毎日ビクビクしていた。

中学と一緒にいた学校だったことが幸運だった。僕は13歳近辺の女の子に

テキストの一部または全部につき、転載、複製、転売などのあらゆる流用を禁じます。

妙に人気があった。日本から来たとかいう、謎めいた雰囲気、年齢不詳の痩せた男の子は、体型的にも彼女達と釣り合いがとれた。

ホストファミリーとスケートに行ったとき、セクシーな女の子2人が親しげに話しかけてきた。笑うと歯の矯正用金具(※)がむき出しになり、好奇心いっぱいの無邪気な姿とセクシーな風貌がひどくアンバランスだった。セクシーと言っても、こちらは何となく清純な感じだ。

そんなスケート少女たちと一緒に滑っているうちに、彼女たちが近くの学校に通う小学生だということが判明した。やがて、彼女たちが僕に話しかけてきた理由がわかった。彼女たちは僕を同じ小学生だと勘違いしていたようで、僕の実年齢を聞いたときは絶句していた。

※ braces と呼ばれ、ローティーンの子供たちのトレードマークと言えるほど普及している。八重歯は日本では可愛さの象徴とも解釈されるが、アメリカでは vampire teeth(吸血鬼の歯)とも呼ばれ、極端に嫌われる。

***** 中 略 *****

オーディション

フットボール選手と肩を並べるほど人気者だったのが、マークという男子学生だった。長身+ブロンド+ブルーの目という、アメリカ人の古典的理想を具現化したよう

テキストの一部または全部につき、転載、複製、転売などのあらゆる流用を禁じます。

な彼は、演劇部のヒーローだった。

優越感に凝り固まったような彼の言動は非常にクサかったが、クサイなどという微妙な感覚をアメリカの高校生が有しているはずはない。

学園祭が近づくと、演劇部主催のオーディションが開催される。脇役の演技者を、生徒の中から一般公募するのだ。

オーディションに応募することを try out と言い、Why don't you try out? (チャレンジしてみたら?)という感じで使う。

憧れのマークと共演できるという期待から、オーディション開催がアナウンスされると、あちこちでこの言葉が聞かれるようになる。

役柄としては男女共にたくさん募集しているようで、演劇部の先生は「東洋人役」の try out を僕に勧めた。

僕のためにわざわざ作ってくれたような役柄だが、学校中の注目の的になっているオーディションに出ること自体、非常に誉れ高い。僕は全く自信がなかったが、とにかくやってみることにした。

教室いっぱいの生徒が見守る中、僕はステージに立って決められた台詞を読んだ。緊張のあまり声が通らず、口も思うように動かないため発音も下手で、涙が出てきた。ところがそれを見ていた生徒や先生は、僕の演技(?)を高く評価した。「あれは実に名演技だった。どうやって涙まで出してしまうのか？」

最初はからかっていると思っていたのだが、複数の人間から同じコメントをもらい、どうも本心らしい。アメリカ人の単純さに気がついたのは、この時が最初だった。

テキストの一部または全部につき、転載、複製、転売などのあらゆる流用を禁じます。

できるだけ多くの生徒を参加させるという趣旨で企画されたこの演劇は、他界した村の住人がひとりひとり順番にステージに出て、生きていた頃のショート・ストーリーを思い出深く語るという、ゾンビ好きなアメリカ人がいかにも好みそうな(退屈な)脚本だった。

僕はゆかたを着て、速攻で覚えた黒田節の杯のシーンがごとく、ステージの上を行ったり来たりしながら台詞をよんだ。

十分に声が出ず満場の父兄には何のことかさっぱり分からなかったろうが、なんせ東洋人の役だ。言っていることが解らなくても全然平気という、まさに留学生にうってつけの役柄だった。

++++
是非、本編をお読み頂ければ幸甚です。アメリカン・スピリットに乾杯！

高校留学体験満載の本編は、完全無料でダウンロードいただけます。

「クララの米口語塾」の無料体験配信にご登録いただくと、亜米利加放浪記【Ⅰ】(高校留学編)の本編(PDF 46ページ)のダウンロード URL をお知らせいたします。

● [無料体験配信ご登録 ⇒ http://ezamerican.com/rec/try_tz.html](http://ezamerican.com/rec/try_tz.html)

配信登録はいつでも変更または解除可能ですので、お気軽にお申し込み下さい。

教材をご購入いただくと、以下の続編【Ⅱ】および【Ⅲ】もおつけいたします。

● [亜米利加放浪記【Ⅱ】大学留学編 \(PDF ファイル 69ページ\)](#)

● [亜米利加放浪記【Ⅲ】大学院留学編 \(PDF ファイル 60ページ\)](#)

テキストの一部または全部につき、転載、複製、転売などのあらゆる流用を禁じます。